

2022年3月期 通期決算概要

- 建築用ガラス事業および高機能ガラス事業の好調により通年で黒字を継続し、売上高、営業利益は通期業績予想を達成。ロシア JV 関連について、持分法適用会社への貸付金と投資の減損損失を計上するが、純利益は3期ぶりに黒字転換
- 2023年3月期業績予想は、需要回復に伴う販売数量増加、全事業での価格転嫁進捗により増収だが、ロシアのウクライナ侵攻や世界的なインフレ傾向で投入コスト増加継続により営業利益は減益、純利益は横ばいの計画。全社的なコスト削減を継続し収益力の回復を目指す
- 中期経営計画「リバイバル計画 24 (RP24)」に基づく構造改革の諸施策は順調に進捗、重点施策である「財務基盤の回復」の推進により、資本比率 (10%以上)、フリー・キャッシュ・フロー (100億円以上) は、単年度で財務目標数値を達成
- 2050年のカーボンニュートラル達成をコミット

1. 2022年3月期 通期決算

- 第4四半期 (1-3月期) の売上高は1,576億円 (前年同期比+157億円、+11.1%)、営業利益は55億円 (同+4億円、+8.2%) と、自動車用ガラス事業の減益を、建築用ガラス事業および高機能ガラス事業の増益がカバーして黒字継続
- 累計の売上高は6,006億円 (前年度比+1,013億円、+20.3%)、営業利益は200億円 (同+69億円、+52.9%)。売上高、営業利益は通期業績予想を達成。ロシア JV 関連について、持分法適用会社への貸付金と投資の減損損失 (合計△68億円) を計上するが、純利益は41億円 (同+211億円) と3期ぶりに黒字転換
- フリー・キャッシュ・フローは223億円、自己資本比率は15.5% (前期末比+7.9pt) まで回復

<損益計算書および財務指標>

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期累計			2022年3月期 通期 業績予想
	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	
売上高	1,419	1,576	157	4,992	6,006	1,013	5,900
営業利益	51	55	4	131	200	69	200
営業利益率	3.6%	3.5%	△ 0.1pt	2.6%	3.3%	+0.7pt	3.4%
個別開示項目(COVID-19関連)	△ 21	-	21	△ 161	-	161	-
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	30	55	25	△ 30	200	230	200
個別開示項目(その他)	△ 61	△ 7	54	△ 59	36	95	40
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 31	48	78	△ 89	236	325	240
金融費用(純額)	△ 35	△ 34	1	△ 110	△ 125	△ 14	△ 130
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	△ 34	△ 34	-	△ 34	△ 34	-
持分法による投資損益	13	19	6	22	75	53	70
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	6	△ 34	△ 40	6	△ 34	△ 40	-
税引前利益 (△損失)	△ 47	△ 36	11	△ 172	119	290	180
当期利益 (△損失)	△ 28	△ 38	△ 10	△ 163	68	231	120
純利益 (△損失) *	△ 30	△ 45	△ 15	△ 169	41	211	100
EBITDA	145	144	△ 1	468	567	98	
フリー・キャッシュ・フロー	241	212	△ 28	△ 45	223	268	

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

(億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	増減
総資産	8,250	9,393	1,143
親会社の所有者に帰属する持分	629	1,453	824
自己資本比率	7.6%	15.5%	+7.9pt

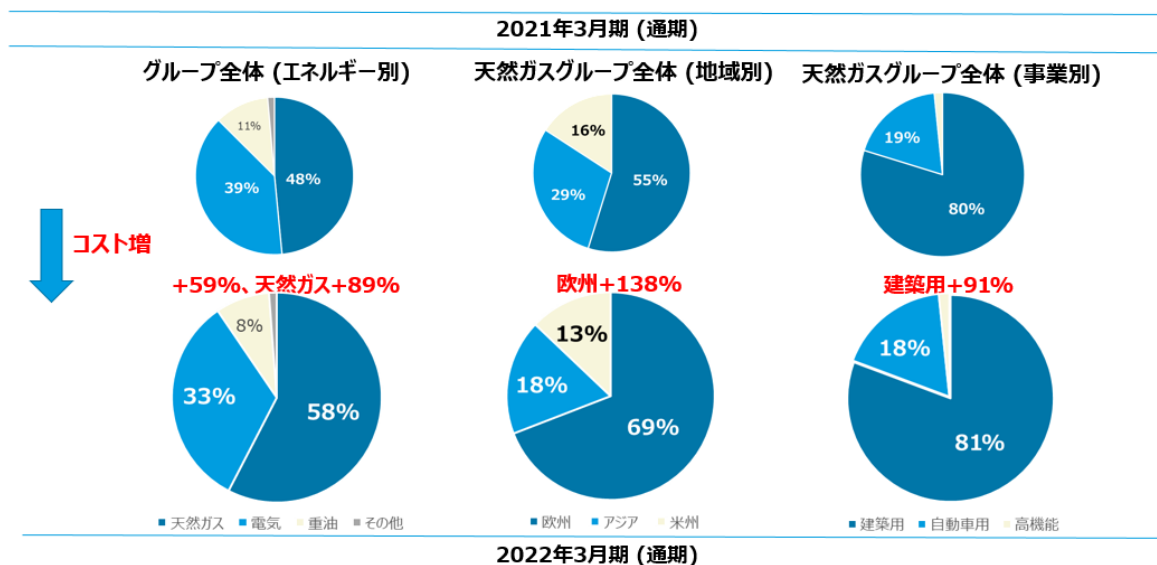
<各事業の概況>

建築用ガラス事業	欧州をはじめ全地域で堅調な需要により大幅な増収を継続。エネルギー価格高騰の影響を受けるが、価格改善およびコスト削減により軽減、大幅な増益を継続。太陽電池パネル用ガラスの需要も引き続き堅調
自動車用ガラス事業	1-3 月期は増収だが、半導体等部品不足による自動車生産制約と原燃材料費高騰の影響が続き、コスト削減努力にもかかわらず減益。累計でも減益
高機能ガラス事業	COVID-19 の影響があった前年同期から事業環境改善が継続、増収増益(9 月以降は売却したバッテリーセパレーター除く)。特に在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が増加

(億円)	2021年3月期		2022年3月期		前年同期比	
	1-3月期	累計	1-3月期	累計	1-3月期	累計
売上高						
建築用ガラス事業	594	2,155	750	2,818	155	663
自動車用ガラス事業	716	2,452	730	2,762	14	311
高機能ガラス事業	102	368	90	398	△ 12	30
その他	6	17	7	27	1	10
売上高合計	1,419	4,992	1,576	6,006	157	1,013
営業利益						
建築用ガラス事業	41	157	77	281	36	125
自動車用ガラス事業	29	18	△ 20	△ 79	△ 49	△ 97
高機能ガラス事業	22	67	21	99	△ 1	32
その他	△ 42	△ 111	△ 24	△ 101	18	10
営業利益合計	51	131	55	200	4	69

2. 当社グループにおけるエネルギーコスト上昇の影響

- 世界的にエネルギー価格が上昇、2022年3月末で2021年3月末対比でドイツの天然ガス価格は7.0倍に急騰、日本の重油価格は同70%と高騰
- 2022年3月期通期のエネルギーコストは2021年3月期通期と比較し、グループ全体で+59%、特に天然ガスは+89%の上昇
- 地域別では欧州、事業別では建築用ガラス事業が天然ガスの使用量が多く、コスト上昇の影響を受けた



3. 2023年3月期 通期業績予想

- 増収だが営業利益は減益、純利益は横ばいの計画。需要回復に伴う販売数量増加、全事業で価格転嫁が進む一方で、ロシアのウクライナ侵攻の影響を受けてエネルギー価格高騰、世界的なインフレ傾向等で投入コストは増加の見込み。
- 建築用ガラスは、全地域で良好な需給環境が継続するが、エネルギー価格高騰の影響を受ける見込み
- 自動車用ガラスは、半導体等部品不足は徐々に解消する見込み。原燃材料費高騰の影響も継続的に受けるが、価格転嫁、追加コスト削減の継続により、黒字転換を目指す
- 高機能ガラスは、事業環境の改善が継続と予測



<業績予想>

(億円)	2022年3月期 実績		2023年3月期 予想		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	2,907	6,006	3,200	6,500	293	494
営業利益	127	200	70	180	△ 57	△ 20
個別開示項目 (その他)	45	36	20	20	△ 25	△ 16
個別開示項目後営業利益	172	236	90	200	△ 82	△ 36
金融費用 (純額)	△ 58	△ 125	△ 70	△ 130	△ 12	△ 5
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失	-	△ 34	-	-	-	34
持分法による投資利益	33	75	20	40	△ 13	△ 35
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	-	△ 34	-	-	-	34
税引前利益	147	119	40	110	△ 107	△ 9
当期利益	96	68	20	50	△ 76	△ 18
純利益*	86	41	20	40	△ 66	△ 1

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

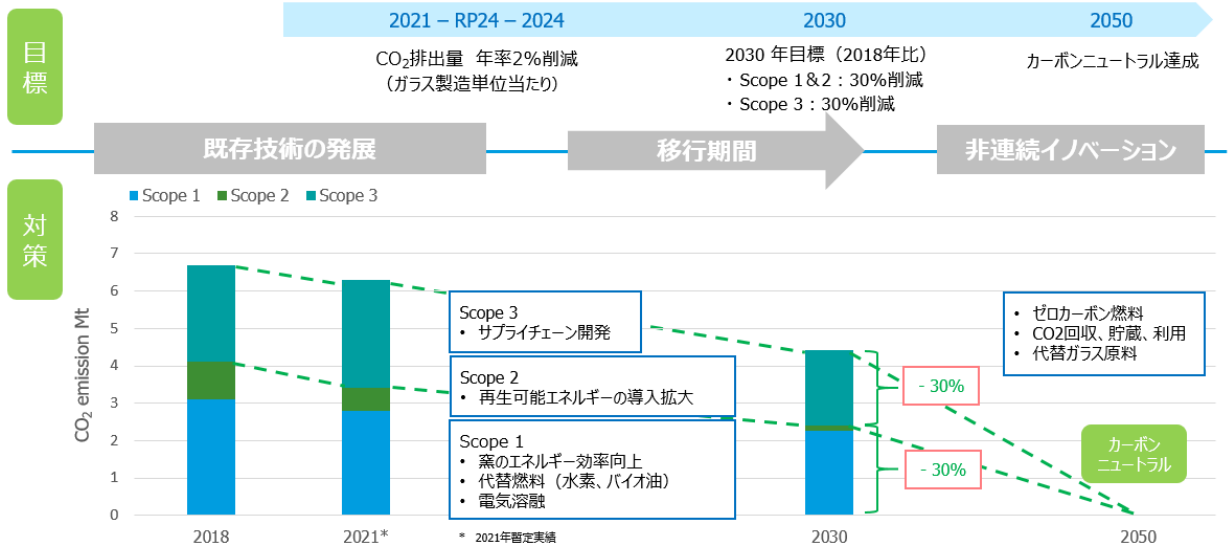
4. RP24 に基づく構造改革施策の進捗

- コスト構造改革：人員削減およびコスト削減ならびに自動車用ガラス事業での追加コスト削減が進捗
- 事業構造改革：アルゼンチン新フロート窯建設は順調に進捗し、2023年3月期上半期に本格稼働予定
- 事業ポートフォリオ変革：First Solar社の生産能力増強に対応して、当社太陽電池パネル用ガラスの生産能力増強を検討中
- 財務基盤の回復：自己資本比率、フリー・キャッシュ・フローは単年度で財務目標数値 (10%以上、100億円以上) を達成

3つの 改革	コスト構造改革 ・ 人員削減：欧米の自動車用ガラス事業を中心に拠点、製造ラインを統廃合、22/3期で約1,000人を削減、21/3期と合わせて20/3期比2,340人の削減 (同136億円削減) (退職コストは21/3期に引当済) ・ コスト削減：「改革・革新」活動を通じた直接費低減を推進、期末までに50億円を削減 ・ 自動車用ガラス事業における追加コスト削減は、計画を上回る約68億円を実施	
	事業構造改革 ・ アルゼンチン新フロート窯建設は順調に進捗、2023年3月期上半期稼働予定 ・ 世界初、バイオ燃料を100%利用したフロートガラス製造実験に成功	 <small>アルゼンチン新フロート窯全景</small>
	企業風土改革 ・ 「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)」：国際ガラス年の2022年、全ての人が「ガラス」のように輝ける場の提供を目指しグローバルで「国際女性デー2022」に様々な活動を実施。 ・ 「双方向コミュニケーションの活性化」：全従業員意識調査とそれに基づく対話促進	
2つの 重点施策	財務基盤の回復 (2022年3月期 通期実績) ・ 税引前利益、純利益は黒字に転換。純利益は前年同期から211億円の大幅改善、自己資本比率も15%超まで回復 ・ 2022年3月末現預金残高604億円、未使用融資枠532億円	
	高収益事業へのポートフォリオ転換 ・ First Solar社の生産能力増強に対して、当社太陽電池パネル用ガラスの生産能力増強を検討中 ・ 高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」には、カーボンファイバー代替を中心に数多くの引き合い ・ 日射光の透過率を向上させた「NSG ポタカール™」シリーズを立ち上げ、収穫量最大化への貢献を目指す	 <small>NSG Botanical</small>

5. サステナビリティの推進

- 2050年のカーボンニュートラル達成を宣言
- 2030年のCO2排出量削減目標を2018年比21%から30%に引き上げ



<お問い合わせ> 広報部 Tel : 03-5443-0100